

■紙上面接シート

Aさん(48歳・男性)は、初めて〈自立相談支援機関〉に電話をかけてきた。「もう完全に自信がなくなりました。ハローワークでいくつか紹介してもらったのですが、すべて面接でダメで…」と追い詰められた口調で話した。その1週間後に〈自立相談支援機関〉で面接を実施することになった。

*

初回の面接では、Aさんは緊張した面持ちで話し始めた。実直でまじめそうな印象を受ける。この面接の最初の段階で、次の事実関係が明らかとなった。

Aさんは、現在、中学2年生の娘との2人暮らしである。2年前に妻を病気で亡くした。健康食品を輸入する小さな商社に勤めていたが、経営の悪化から1年前にリストラされた。その後、日々の生活費を稼ぐためにアルバイトをしながら再就職に向けて活動してきた。ハローワークにも頻回に足を運んできた。けれども、面接試験でうまくいかないことが長く続いている。近頃は、娘への対応にも手を焼いているとのことであった。

*

少し表情が和らいだAさん(C)に対して、支援員(W)が、今の気持ちを尋ねた。すると、次のような答えが返ってきた。

C : もう疲れちゃいました。どうやら、私は社会から必要とされていないということなんでしょうね…。

W :

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57